

胸骨圧迫の重要性を強調した一次救命処置講習会の取組み

永生会訪問看護ステーションいるか

星本 諭

【はじめに】

当法人では専門職対象の一次救命処置(BLS)講習会受講者数が400名を超えているが、定期的な再講習システムの整備は不十分である。今回、多くの職員が、定期的に、短時間で受講できるように、近年有効性が示されている胸骨圧迫のみの心肺蘇生法に絞ったBLS講習会を開催した。同講習会の効果判定を通じ、再学習の必要性を検討することを本調査の目的とした。

【BLS講習会の内容（開催時間：約2時間）】 ※前講習会開催時間は3時間30分

1. 実技(約50分)：成人における、反応の確認～通報～CPR(胸骨圧迫)～AED(除細動器)を、映像を用いてそれぞれを説明してから実技を行い、最後に一連の手順で実施した。その際、適切なテンポ(100回以上/分)と、深さ(5cm以上)の胸骨圧迫を強調して説明した。
2. 講義(約30分)：最新の『アメリカ心臓協会ガイドライン2010』の内容も含め、旧ガイドラインとの変更点や、救命率などの各種統計資料、さらに胸骨圧迫や除細動器の役割についてスライドを用いて講義した。
3. 実技(20分)：AED使用方法や、ポケットマスクを用いた人工呼吸の実技講習。

【対象と方法】

対象は、町田市鶴間に開設を予定している介護老人保健施設オネスティ南町田の新入職員51名(男性18名、女性33名)とした。対象者の職種は、看護師8名、介護職39名、栄養士1名、ケアマネジャー1名、リハビリ職1名、その他1名。経験年数は平均 7.7 ± 7.3 年だった。

講習会の効果を検討するために、講習会前後で筆記試験(10問/100点)を実施した。統計処理はSPSS Statistics 17.0を用いた。併せて試験後にアンケートにて満足度(5段階順序尺度)等の回答を得た。

【結果と考察】

講習会前後での試験の平均点は、前58.8点→後79.8点($p < 0.01$)と有意に増加した。このうち既受講者(38名)/未受講者(13名)の、前平均点は58.4点/60.0点と差を認めなかった。既受講者の受講回数は平均2.2回で、2010年以前が13名(前平均60.0点)、2010年以降が18名(前平均55.6点)であり、これも前平均点に有意差を認めなかった。このように本講習会で、2010年に変更された「心肺蘇生法の手順」「胸骨圧迫の方法と意味」の学習を促し、又「傷病者を発見しても触れてはいけない」という誤りも修正できたものと考えられる。以上の点から既受講者であっても定期的な再学習の必要性が示唆される。

アンケートでは、「講習会を他の人にすすめる」に対して「思う」「やや思う」と回答した者が88.2%、「手技を活かすことができる」90.2%、「内容に満足」90.2%、「場所・運営等に満足」88.2%、といずれも高い満足度を得た。

自由記載では「また受講したい」という感想が多く聞かれた。一方、開催時間や場所、機材、内容についての要望は課題と捉え、今後さらに改善したい。